

会 議 録

会 議 名	令和元年度（2019年度）第2回八王子市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会	
日 時	令和元年（2019年）6月5日（水）午後2時00分～4時55分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 第6委員会室	
出席者氏名	委 員	井上仁会長、大宝院清孝副会長、荒井容子委員、石井淳委員、石田健太郎委員、岡崎理香委員、鈴木紀幸委員、田上美穂委員、野中真理子委員、町田理恵委員、松井優佳委員、松野美樹委員、三浦誠委員、森直美委員、山本由佳理委員（会長、副会長、以下五十音順）
	関連所管	鳥越大横保健福祉センター館長
	事務局	澤田子どものしあわせ課長、東郷子ども家庭支援センター館長、小池児童青少年課長、小野主査、井垣主査
欠席者氏名	内野彰裕委員、大島達也委員、加藤悟委員、眞保智子委員、廣元冽委員、菅野周平委員、三入重夫委員、渡辺恭秀委員	
議 題	議事 1 第3次八王子市子ども育成計画 平成30年度（2018年度） 取組状況の点検及び評価について 報告 1 ニーズ調査の結果について	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	なし	
配付資料名	別紙のとおり	
会議の内容	別紙のとおり	
会議録署名人	令和元年（2019年）6月26日 森 直美	

(別紙) 配付資料

- 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案（平成30年度分）[前回配付資料]
- 八王子市立保育園（公設公営園）保育の質ガイドライン
- 子育てに関するアンケート調査報告書（就学前児童世帯・ひとり親家庭）
- 八王子市子ども育成計画づくりに向けたアンケート調査報告書（児童・生徒）

(別紙) 会議の内容

【澤田子どものしあわせ課長】

ただいまより、八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会令和元年度第 2 回を開催いたします。23 名中過半数の方が出席していますので、開催要件を満たしております。では、会長に進行をお願いいたします。

【井上会長】

事務局の報告事項からお願いします。

【事務局】

初めに資料 2「八王子市立保育園（公設公営園）『保育の質のガイドライン』」から報告します。これは昨年 12 月に作成したもので、今後これを基に、私立保育園協会と調整しながら、市内全域での共通化について検討してまいります。

次にニーズ調査の結果について報告します。今回の計画策定にあたり、就学前児童がいる家庭、ひとり親家庭、市内の小学 5 年生と中学 2 年生を対象にアンケート調査を行いました。

ピックアップして説明いたします。まず就学前児童世帯を対象としたアンケートですが、日頃お子さんを見てもらえる親族、知人がいるか聞いたところ、「いない」と答えた方が 16.2%でした。この方々が他の質問でのどう答えているか、分析しました。「安心して子育てができていると感じるか」という質問に対しては、約 28%の方が「感じない」と答えています。この割合は、「感じない」の平均 13.9%より高い数値です。同様の傾向が、他の設問でも見られますので、「見てもらえる親族、知人がいない」方への支援の必要性が見えてまいります。

次にひとり親家庭へのアンケート調査ですが「子育てに関して悩んでいること、気になること」については、「経済的な負担」が最も多く、次いで、「子どもへの教育、接し方、触れ合う時間に関すること」となっております。

続いて児童・生徒へのアンケート調査ですが、悩みや不安について相談した人を聞いております。「相談しなかった、できなかった」と答えた子どもについては、その悩みの内容が、「家族のこと」「たたかれたり、ひどい言葉をいわれること」が、全体と比べて多いです。このように調査結果を分析し、計画策定に活かしてまいります

【井上会長】

調査結果については八王子市の現状や、これからどのように対応していくかについての検討材料となりますので、計画策定の中でも重点的に扱っていきたいと考えています。特に、子どもや保護者の安心、安全につながる施策の検討及び少子化対策に関して、根拠となってまいります。質問などがありましたら、事務局に御連絡ください。

ガイドラインについては、現計画に市全体としての『保育のガイドライン』の策定・実施が盛り込まれております。八王子の保育の質を問い、高めていく上で、今回のガイド

ライン策定は大きな一つのステップとなります。内容は市町村によってさまざまですので、八王子版について本分科会や認可部会において議論を進めたいと思います。

それでは、本日は昨年度の取組についての点検評価を行います。今回の結果を含め過去4年分の評価を踏まえて、次期計画を反映させてまいりますので、それも意識していただき、ぜひ活発な御意見をお願いいたします。まずは基本施策1について、説明願います。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策1について説明)

【井上会長】

ユニセフについて確認ですが、子どもにやさしいまちづくり事業委員会には出席していますか。町田市は「日本型子どもにやさしいまちモデル」検証作業に参加しているようですが。

【事務局】

委員会には引き続き参加はしていますが、検証作業には参加していません。

【井上会長】

もったいないですね。子ども委員会に関しては、子どもの意見発表の取組は継続されていますが、制度化はされておらず、全市的な取組にはなっていないため「未実施」ということになっております。「子どもにやさしいまち」を考える上で、子どもの参画は柱になっています。分科会としては、生徒会・児童会を巻きこんだ構想で具申していたのですが、そこには至っていません。

【岡崎委員】

一昨年度、市制100周年の年は子どもの参画が進みましたが、そこから落ちてしまった感じがします。

【井上会長】

100周年記念事業で取組を進め、それをベースに計画策定をするためには、分科会でも子どもとの意見交換などもっと早く始めるべきだったかもしれません。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策2について説明)

【井上会長】

公園やプレイパーク事業は、子どもたちからの要望も一番多いかと思いますが、市は市民団体1か所への補助金のみであり、恒常的なプレイパークは市内にまだないのですか。

【事務局】

ありません。

【井上会長】

八王子型児童館とは、どのようなものでしょうか。

【事務局】

八王子の児童館は小型児童館と言って小学生が対象なのですが、本市では施設改修をしないで中高生も受け入れています。このような施設は他の自治体と比べても珍しく、さらに児童館職員の児童ソーシャルワークスキルをいかして相談事業も充実していますので、従来のイメージとは違うことから、八王子型児童館と呼んでいます。

【井上会長】

ユースリーダーの育成を児童館が行っていますが、児童館独自の事業であり、市としての取組はなかったのでしょうか。市の方針として実施しているものであれば、安定して市民生活に貢献する取組ということになりますので、結果論ではなく、どう位置付けられているかも評価の対象としたいと思います。

【事務局】

学生ボランティアの受入れについては実施要綱も作り、しくみとして持っておりますが、ユースリーダー育成の方針等とは異なりますので、会長の御発言の意図からしますと、児童館独自の事業ということになるかと思います。

【井上会長】

その他の取組については、皆さんいかがですか。

【松野委員】

全体的に幼児向けのイベントが少なく、小学生以上が対象の事業が多いという印象です。

【山本委員】

先週参加したプレイパークは、参加者のほとんどが幼児でした。

【事務局】

児童館事業では、幼児の親子を対象とした体験活動も実施しています。

【岡崎委員】

水辺の学校は幼稚園児も対象となっているようです。

【事務局】

安全面などイベントの内容によりますが、幼児を対象としたものも行っています。ただ、この点検評価報告書に掲載している事業については、小学生以上が多いかもしれません。

【井上会長】

先ほど山本委員がおっしゃったイベントは、プレイパークというより野外ひろばの要素を持ったものというイメージですね。

【山本委員】

プレイリーダーが来て、ロープでぱっとブランコや綱渡りを作ったり、一緒に昆虫探しをしたり、子どもたちが泥んこになって自由に走り回ることができる場を作っていました。参加者は0歳から小学校低学年までのお子さんがほとんどです。世田谷プレイパークの小規模型のイメージかと思います。

【井上会長】

施策 4 が B 評価になっていますが、子どもたちの意見を反映して、公園は変わったと言えるのでしょうか。具体的な取組を教えてください。

【小池児童青少年課長】

富士森公園は、平成 29 年度の都市緑化フェアをきっかけに木を伐採して明るくし、遊具や子ども用トイレなど施設も充実しました。結果として親子連れが毎日たくさん集まるようになった、という実績があります。

【事務局】

平成 26 年度には松が谷エリアにおいて、子どもたちが提言した遊具の交換について、公園課がすぐに対応しました。

【井上会長】

徐々に改善されているのは分かりましたが、この報告書には昨年度の取組について、数字も含めて具体的に示してください。

【野中委員】

ちょっと議題とズれるかもしれませんが、児童館という名前は小さい子が来る場所というイメージがありますので、八王子型児童館の取組を聞きますと、せっかくだったら違う名称でもいいのではないかと思います。

【井上会長】

次期計画では若者も対象となり、健全育成や若者支援等児童館の役割も広がります。それに伴って名称も、「ユースセンター」など若者部会で検討してほしいと思います。

【岡崎委員】

公園に関する施策 4 については「量」が指標になっていますが、次期計画では「量」より「質」にしてはいかがかと思えます。

【井上会長】

確かに、子どもにとって遊べる公園かどうかを指標化したほうがいいですね。この視点で現計画について自己評価するとともに、次期計画については指標を検討してください。

【事務局】

(資料 1 第 3 次子ども育成計画 点検・評価報告書案 (平成 30 年度分) 基本施策 3 について説明)

【石井委員】

施策 8 について、ガイドラインの策定が指標になっており、今回公立保育園のガイドラインができましたが、市全体で考えますと民間園も含めたものが必要となります。この点について、今後公私別々に策定するのか、公私で統一したものを策定するのか、その方向性が見えてきません。もう一点、施策 9 の「保・幼・小連携の推進」について、こちらは指標が「保・幼・小連携の日」実施校数となっておりますが、小学校の数だけでは不十分ではないかと思います。現に園の実施率は 71.8% となっております、その点を含めて評価し、さらに今後の指標については、園の実施率を加えるべきと考えます。

【井上会長】

ガイドラインについては市全体としての内容が必要です。現在未実施ですので、今後認可部会を中心に検討して全体化を図り、現計画期間内に策定するか、あるいは難しい場合は次期計画にも盛り込むことが必要です。また「保・幼・小連携の日」については、参加していない園が3割あるのは大きな課題ですね。

【石田委員】

実施している小学校区内での園の参加率はいかがでしょうか。

【澤田子どものしあわせ課長】

市全域としての数値ですが、それが71.8%です。子ども同士の交流はもっと多くの園で実施していますが、教職員同士の交流がある園の割合が、この数値ということになります。

【野中委員】

園からすると、多くの園児が入学する小学校と連携したいが、必ずしも近隣園の園児が小学校に入学するわけではない、という状況もあるかもしれません。

【井上会長】

基本的には、小学校区内での連携ですよ。

【澤田子どものしあわせ課長】

小学校区の境界にある園などで、2つの小学校に参加している例もあります。

【井上会長】

3割の園が連携していないとすると、もう少し啓発の必要性があります。ガイドラインも策定したとのことですが、それが活用されて初めてA評価なのではないでしょうか。この点について、再度委員の皆さんも御意見をお願いします。また事務局も、市の取組状況が分かるように記載をしてください。

【石田委員】

公立保育園が保育のガイドラインを策定した努力は評価したいと思いますので、その点も記載をお願いします。

【三浦委員】

就学支援シートに関しては、そのシートを活かして、学校がどのような支援を行っているか、その後のフォロー体制が分かるようにしてください。

【井上会長】

入学後のサポートは教育委員会が所管になりますので、教育委員会との連携の中で、支援が必要な子どもの対応に情報を活かすことが課題です。教育委員会も、ここで計画改定となりますので、この点について意見を伝える必要があると思います。さらに障害児支援については、法律においても児童福祉法から障害者総合支援法となり、所管が福祉部となりますので、障害者福祉課に丁寧に話を聞き、次期計画への盛り込みについて意見具申をしたいと思います。八王子には素晴らしい医療機関が多いですが、在宅のお子さんに対するネットワークづくりは前回からの課題となっております。デイサービスのありかたや

保・幼・小連携について考える上でも大事だと思います。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分) 基本施策4について説明)

【井上会長】

八王子には子ども会はどのくらいありますか。

【小池児童青少年課長】

約60です。

【事務局】

子ども会が町会の中にあるところや、活動に育成会やジュニアリーダーが関わっているところなど、子ども会の活動形態はさまざまです。

【井上会長】

市はどのように関わっているのですか。

【小池児童青少年課長】

市子連に補助金を出して、ジュニアリーダー養成を行っています。

【井上会長】

イベント参加者数3,435人と大幅に増えていますが、この人数は経常的な数値ですか。

【小池児童青少年課長】

イベント数が増えたり、参加者数が増えているイベントがあります。

【井上会長】

参加者数が増えたのは良いですが、中身の判断は難しいですね。青少年サポートネットは相談者が増えていますが、どのような現状ですか。

【小池児童青少年課長】

就労に関する相談や就労体験等の利用者は増えており、53件です。就労に結び付いた件数が42件で、こちらは数字としては下がっています。

【石田委員】

施策10の放課後子ども教室について、実施校数は着実に増えていますが、学童の待機児童数も増えていますので、今後の指標は待機児童数に切り替えるべきではないでしょうか。

【鈴木委員】

学童保育所を運営している社会福祉協議会では、待機児童対策として平成28年度からサテライト事業を市から受託しました。数年実施した中で、放課後子ども教室を週5日実施している小学校については待機児童が解消され、サテライト事業が必要なくなったという実績があります。放課後子ども教室がすべて週5日の実施になれば、待機児童解消に寄与すると考えられます。

【井上会長】

放課後子ども教室を週5日できないところは、その理由は何ですか。市が費用負担をし

て、学童保育所と共同で実施するなど検討できませんか。

【小池児童青少年課長】

放課後子ども教室と学童保育所は、一体型で進めたいとは考えてはおりますが、放課後子ども教室は地域性が強く、運営主体や運営方法が様々であり、すぐに週 5 日は実施とはいかないようです。夏休み期間中の毎日実施も難しい点があるようです。

【井上会長】

ここで学童保育所の基準緩和がされますが、八王子の方針は決まっていますか。人材に対する処遇面も考えないといけないと思いますが。

【小池児童青少年課長】

現在未定ですが、質の確保も考え、すぐに緩和するということはありません。現状、市内には 12 団体が 88 か所の学童保育所を、指定管理により運営しています。人件費について、各法人の給与規定に対して委託料として支払っています。現在、国の処遇改善の制度を活用はしていませんが、補助メニューを市の指定管理者制度に反映させるしくみを検討しています。

【井上会長】

補助金の人材育成や人件費につながるよう、八王子のルールを検討してください。

【小池児童青少年課長】

人件費とおやつ代は実費払いとし、そこに充てなければ返還してもらいしくみになっています。

【石田委員】

指定管理者制度に関しては、評価のしかたの再検討をお願いしたいと思っています。人件費を抑えてコストを下げる、ということもありますので、最低ラインの基準を満たしたうえで、実際の金額に見合っているかどうかという判断が必要です。

【井上会長】

どのような物差しがありますか。

【石田委員】

一つは資格の有無、もう一つは従事者の年齢があります。人件費を抑えるために、若い方しか雇わないというのは問題だと思います。

【小池児童青少年課長】

指定管理者の評価のしかたは長年課題があると感じています。学童保育所も公園管理も同じ指定管理者制度で、一定水準を満たせば安いほうになりますが、学童保育所は人を育てる場所であり、人材が大切ですので、選定方法に見直しが必要であると考えています。

【井上会長】

学童保育所に関して条例化をするのでしたら、独自で選定するしくみを作れば良いのではないのでしょうか。今がチャンスだと思います。難しい面もありますが、他の事業とは切り離れた指定管理制度を設けないと、どうしても安いほうに流れてしまいます。

【鈴木委員】

社会福祉協議会は正職員を雇っていなかったのですが、その結果人材が流出し始めたので、方向転換し正職員を採用し始めました。

【井上会長】

福祉サービスの質をどう維持するか、この点は福祉施設全体の課題です。

【澤田子どものしあわせ課長】

保育園等の指定管理者に関しては、質、継続性を重視し、5年目は継続できるルールありますが、10年目は再選定となります。

【井上会長】

その点は次期計画で、保育の質を考える際、指定管理者制度、ありかたそのものを問うべきですね。せっかく育てた人材が流出せず、そのまま地域でいかせるしくみを議論していただきたい。自治体として子育てに投資をすることは、少子化対策の根幹であります。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策5について説明)

【井上会長】

子どもの交通事故件数が昨年より増えています。先日の大津市の交通事故の事例もありましたが、交差点の安全管理は市も関わることで、その中でこの評価をどう見ますか。お散歩コースや通学路の確認など、市の意識が問われています。

【澤田子どものしあわせ課長】

通学路の点検は教育委員会が行い、お散歩コースも早速点検を行いました。

【井上会長】

そのような取組は書いて欲しいと思います。また、公園が暗いという子ども委員の声もあったかと思いますが、改善はされていますか。

【事務局】

指摘のあった公園はずいぶん前に改善されました。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策6について説明)

【井上会長】

待機児童は減ってはいますが、人口減少に入っているということで、違う課題が見えてきます。また、未就学児については義務教育ではないため、いずれの教育・保育施設とも関わりがない子どもについて、乳幼児期の子どもの安心、安全もどう確保していくか、このあたりも次期計画における課題としたいと思っています。

【森委員】

病児・病後児保育の設置は難しいのでしょうか。自身の経験では、子どもが必要な時期に1か所がなくなってしまう、新たに設置される前に子どもが成長して、必要な時期にな

かなか利用ができませんでした。

【井上会長】

民間が運営する場合、営利に関わります。預かる子どもがいないときも看護師を配置するのは民間では厳しいため、病児・病後児保育など専門性を持った保育や緊急保育、24時間保育等は、公立で検討してほしいと思います。子育て支援や相談事業なども含め、公立保育所のありかたを検討してください。

また、父親の育児参加を後押しする施策は何かありますか。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

子ども家庭支援センターではパパ会の開催や、子育て講座についても土曜日の開催等パパが来やすい工夫をしています。

【井上会長】

ワンオペ育児は不安要素となるので、市の取組でアピールできることがあれば教えてください。市役所や市内企業の男性従業員の育休取得状況など、把握している数字を提示してください。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策7について説明)

【井上会長】

産後ケア事業を始めたことについて評価できますね。

【鳥越大横保健福祉センター館長】

利用者の満足度も高いです。

【井上会長】

妊婦面談は、面談率が80%で横ばいになっていますが、その理由は何ですか。

【鳥越大横保健福祉センター館長】

100%を目指してはいるのですが、妊娠届を保健福祉センターに出した方についてはその場で面談を行いますが、提出先が事務所だと保健師がいないため、面談のために改めて保健福祉センターに行く必要があり、二度手間がネックになるようです。

【井上会長】

あかちゃん訪問は実施率が91.7%です。さまざまな取組を組み合わせ、虐待防止につながっていると思いますが、要支援に結びついている割合を提示してください。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策8について説明)

【井上会長】

「マイ保育園」登録制度はまだ実施していませんか。町田市では取組があるようですが。

【事務局】

まだです。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策9について説明)

【井上会長】

「子育てひろばガイドライン」の策定・実施状況は、いかがですか。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

子ども家庭支援センターで検討はしていますが、子育てひろばは、子ども家庭支援センター以外でも運営されており、全体調整が必要なため時間がかかっています。

【井上会長】

事故防止の指針としても、早急に対応する必要があります。保育のガイドラインとセットで進めると良いのですが。「子育てひろばコンシェルジュ」については、どんな人かということの規定しないと、ひろばに設置すること自体が難しくなります。子育て支援員研修の受講を呼び掛けているとのことですので、八王子で受講生をどのように活用しているか提示してください。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策10について説明)

【井上会長】

施策31の家庭教育の支援については、出前講座と連携するなど工夫があると、ママサークルや町内会など身近な場で学べて良いと思います。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策11について説明)

【井上会長】

施策32については、A評価で良いのか疑問があります。子ども食堂等のネットワーク事業はどのような内容ですか。

【野中委員】

ほっこり食堂を運営し、フードバンク八王子のネットワーク事業に参加しています。市の委託内容はどのようなものでしょうか。

【澤田子どものしあわせ課長】

団体同士のネットワーク化やチラシやHPによる周知活動、研修会の実施等による、団体活動の支援を委託しています。

【井上会長】

その事業を通して、市が何を指すか見えることが必要ですね。

【野中委員】

委託するだけでなく、その中身に市が関与して欲しいと思います。

【井上会長】

この施策については B 評価ではないでしょうか。プレイパークについても、実施する人を育てる必要があります。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策12について説明)

【井上会長】

フェイスブックについては、スピード感を持ち、力を入れて運営してください。

【山本委員】

私自身の周りではフェイスブックの活用率が下がっていて、インスタグラムの利用者が増えています。

【井上会長】

市でインスタグラムの運営は難しいかもしれませんが、プロモーションは大切ですので、プロモーションに関する専門のチームの検討なども必要ですね。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策13について説明)

【井上会長】

児童館ボランティアの登録数が減っていますが、大人の担い手がないのでしょうか。

【事務局】

個人の登録者数は変わっていませんが、団体としての登録が減っている状況です。地域や学生とのつながりはあります。

【野中委員】

民生委員は以前は児童館と密接につながっていましたが、委員の活動が多くなり、児童館も力がありますので、講座やサロンにおける関わりが減っているという話は聞いています。また、子どもの数の減少で、来館者も減っているかもしれません。

【松井委員】

Bee ネットボランティアに関しては、大学ボランティアセンターでも周知していますか。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

民生委員さんを通じて地域で周知をしています。そこからどこまで御案内をしているかは把握していません。

【野中委員】

Bee ネットボランティアは利用率が下がっていると思います。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

ボランティア全体が落ちている感じがありますね。

【井上会長】

大学生は意識が高いので、八王子はもっと大学との連携意識を持つと良いですね。イベントも盛り上がりがありますが、活動期間が短いため、1~2年生を中心に常に連携して募

集をかけていく必要があります。ユース世代を引き込まないともったいないです。

【野中委員】

登録者数が指標になっていますが、実際にどれくらい力を発揮したかを測れると良いです。ファミサポはいかがでしょうか。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

提供会員が増えていません。

【井上会長】

提供会員が減っているのは全国的な傾向ですね。

【野中委員】

社会福祉協議会のういずサービスと混同する市民の方も多いです。

【井上会長】

さらにベビーシッター制度がありますので、どうすみ分けするかという課題があります。

【野中委員】

ニーズがあるのは、事前登録が必要のない緊急保育です。

【井上会長】

これだけの規模の市なので乳児院を考えてもいいのではないのでしょうか。

【田上委員】

ういずサービスやファミサポを利用しますが、近所の方とマッチングされますと、生活が丸見えになることなどに抵抗感もあります。それであれば、民間サービスを利用したいと思ってしまうます。

【井上会長】

選択肢があると良いということですね。

【岡崎委員】

今の計画には「地域で子どもを育てる」というコンセプトも明記していますが、こちらの観点から考えるといかがでしょうか。

【田上委員】

今のお母さん方は完璧でいたい方も多く、地域の中で声をあげにくい、例えばおむつの持ち帰りなどマナーもしっかり守らないといけない、見苦しいところを見せられない、といった緊張感があるのではないのでしょうか。

【井上会長】

そのあたりのケアも必要ですね。おむつに関しては持ち帰る方がハイリスクだと思えますが、八王子の保育園の取組はいかがですか。

【澤田子どものしあわせ課長】

基本は持ち帰りですが、園独自の取組として園が処分しているところもあり、市として現在検討しているところです。

【井上会長】

園における使用済おむつの処分は、市民に寄り添う保育を考えるうえで大事ですので、認可部会で議論し、八王子スタンダードで子育て家庭にやさしい取組を実施してください。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策14について説明)

【石田委員】

施策40について、中学校区における要対協の取組は評価すべきですが、一方でケースの移動があった際に、連携が見えない部分があるのではないかと懸念を感じています。移動後の連携について、子ども家庭支援センターでは対応していると思いますが、学童保育所や園など各現場においても意識できるようにしていただけると良いと思います。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

シートを使ってつないでおり、市外も含めて連携も行っています。遅れがある場合は改善するようにしています。

【井上会長】

オレンジリボンキャンペーンも大切な取組みですが、実施していますか。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

子ども家庭支援センターとしては毎年11月に行っています。今後は全庁的に実施していきます。

【井上会長】

児童虐待防止研修については、中身や頻度が見えてきません。また、養育里親制度の普及啓発はイベントは都が主体ですし、八王子では里親家庭が増えてはいないのではないのでしょうか。効果が出ていないのであれば評価が難しいと思います。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

市としての取組を検討しなければいけないと思っています。

【井上会長】

外国籍のお子さんや子育て家庭への対応も、これからますます求められています。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分)基本施策15について説明)

【井上会長】

障害児支援に関しては、八王子には島田療育センターなど優秀な専門機関がありますが、そこに任せるだけでなく、フォローアップをどうするか、第三者的に見ることができたり日常的なサポートができるしくみがどう作るかなど、市の関わりも重要です。

【田上委員】

発達障害ということばが先歩きし、学校の休み時間に一人でいることが多い子どもに対して、学校の先生が子どもの個性として認めず、医療機関にかかるよう言われたことがあります。もっと個性を認めてほしいと思います。

【井上会長】

日本は特別支援教育があるように、分けるということをしてますが、世界的にはインクルーシブの方向性であり、周りが変わることが求められています。保護者の声を聞いたり、保育施設や学童などで、障害認定の有無は関係なく状況によって補助員がつけるようなしくみを、分科会でも検討するとともに、今後市民への啓発を進めていくべきだと思います。

【石田委員】

施策 45 について、放課後デイサービスの利用者数が指標となっていますが、ここで法改正により新規設置が難しくなったため、今後利用者が増えていくことは難しいと思います。次期計画では指標を見直し、利用者数ではなく待機児童数とすべきかと思います。

【井上会長】

待機児童をどう考えるか、という点もあります。例えば身近な施設に預けたい保護者は、補助員をつけてもらって学童保育所に通いたいという要望もあるのではないのでしょうか。

【事務局】

(資料 1 第 3 次子ども育成計画 点検・評価報告書案 (平成 30 年度分) 基本施策 16 について説明)

【井上会長】

ひとり親家庭の子どもの生活向上・学習支援事業について、児童館は 5 回のみですか。

【事務局】

これは児童館が普段開館していない日曜日に、モデル事業として実施したものです。

【石田委員】

施策 46 に関して、アンケート調査の結果を見ると、ひとり親家庭について親子でふれあう時間へのニーズがあります。都や首都大調査でも同様の結果ですので、経済的支援をもって、ふれあう時間の確保をしてほしいと思います。

【井上会長】

学習支援は一本化し、子どもがラベリングされないようにするべきと考えます。国の補助金が 2 つに分かれているため、行政でも 2 本になっていますが、横でつなげて生活困窮のボーダーラインにいる家庭や子どもに対応できるようにしてください。

【町田委員】

事業主として感じるのですが、ひとり親家庭の母親は家族のフォローがなく、正社員として働き続けることが難しい状況があります。育休後復職しても、お子さんの体調等で保育園から呼び出しがあったりすると、働きたくても気持ちの面で後退してしまうようです。就労支援講座だけではなく、何年間かの期間をかけて正社員や自分が望む就労形態になるようなしくみを、行政やハローワークで考えてほしいです。親と同居している人ばかりではないので、母子だけでなく父子にも手厚くしないとけません。

【井上会長】

アンケート結果を見ても同様です。八王子のニーズに対応できるよう、保育、働き方、

費用補助等を含めた総合施策についての議論が必要ですね。

【事務局】

(資料1 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(平成30年度分) 基本施策17について説明)

【井上会長】

施策50については、どのくらいの子どもをフォローしていますか。フォロー率によって、成果としている90%、100%の価値が変わってきます。また貧困対策は福祉の柱であり、一番向き合わなくてはいけない課題ですので、市の取組として、就労支援だけではなく、先ほどの話のあった保育の体制整備など総合的な支援が求められています。そう考えますとB評価ではないでしょうか。

【野中委員】

日野市には食材保管庫があり、社会福祉協議会と連携し活用されています。八王子にはありませんので、今後空いている公共施設等を利用して、より貧困対策につながるスムーズな拠点づくり、スペースの確保をして欲しいです。

【井上会長】

文京区ではボランティアの方が食材を家に届けています。子ども食堂の連携だけが貧困対策ではありませんので、しくみづくりを議論していきましょう。

では、点検評価は以上になります。事務局から何かありますか。

【事務局】

次回分科会は7月2日(火)に開催いたします。また、それまでの間に計画策定部会も行いますので、御参加をよろしくお願いいたします。

【井上会長】

それでは本日の分科会はこれで終了いたします。長時間ありがとうございました。